

令和6年3月26日開催
令和5年度第2回中央区区民対話会議事要旨
(令和5年度第2回地域リーダー研修開催後)

区民対話会に先立ち、開催された令和5年度第2回地域リーダー研修でテーマとした「遺跡から見た中央区の歴史」や「スマートシティ推進ビジョン」を踏まえ、「中央区の魅力発信」や「町内自治会のICT化」などについての意見を求めた。

1 スマートシティ推進課

- (1) 高齢者として、自分が生きている間の実現可能性が知りたいとの意見があった。
- (2) スマートシティではなく、コンパクトシティ化すべきではないかとの質問に対し、スマートシティ推進課から、千葉市には、一極集中や集住化の計画はなく、各区の特性を活かした多心型のまちづくりを目指していると説明した。

併せて、スマートシティの推進とは、テクノロジーを活用して、生活を便利にし、また、持続可能なまちにしていこうとすることであると、自動運転バスの実証実験などが、減便や路線自体が減っているような地域の課題を解決する可能性もあると説明した。

- (3) 英国における郵便局システムの不具合により郵便局長達が冤罪になった事件を例示として、AIなどのシステムが陳腐化した場合の危険性を指摘し、代替え可能なシステムを使用した方が良いとの意見があった。

これに対し、スマートシティ推進課から、システムやデータの管理・制御に関連して、地域の暮らしを支える様々なサービスが、必要なデータの連携・共有を相互に進めることによって、一人一人により最適化されたサービスの提供につながっていくように国が中心となって、データ連携基盤の整備・普及を進めていることを紹介した。また、その基盤は、都道府県単位で構築することとされており、小さな市町村やデータを活用したい民間企業等にも参入しやすく、持続可能なものとするため、運営に係る費用やシステム更新に係る費用などを、会費制や利用料金制にして賄うことなども視野に、多様な分野の関係者達が、様々な角度から検討していることを説明した。

- (4) いずれ自動運転が実現した際の持続可能性についても、市としての持続可能となるような経営手法が必要であるとの意見があった。

これに対し、スマートシティ推進課から、千葉市には民間企業など50団体以上が加入するモビリティコンソーシアムがある。この中で、各団体の得意分野に関する実証実験や知見を持ち寄っての定期的な意見交換を行っていることを紹介した。また、新しいモビリティサービスを活用した持続可能なまちづくりのために、行政だけでなく、多様な主体に積極的に参画していただきながら産学官の連携を強めていこうとしていると説明した。

- (5) 高齢者とか子供というだけで、援助するのは、良くない場合もあるとの指摘があった。体を動かさないで、薬がドローンで届くのでは、健康寿命は短くなるという指摘であり、むしろ高齢者や障害者が、外に出られるように歩道などの環境を整備すべきであるという意見であった。

これに対し、スマートシティ推進課から、千葉大学との共同研究によると、普段から外出を頻繁に行い、通う場所のある高齢者は健康寿命が長い傾向にあることを紹介し、指摘についての理解を示した。

- (6) 新病院整備について、進捗状況やどのような病院にしたいかについて質問があった。これに対し、中央区長から、契約も成立して、工事に着手したことを説明した。また、スマートシティ推進課から、千葉市では、オンライン診療や服薬が進んで行われていることを紹介したほか、新病院は、最先端の技術を採用し、現在の機能を維持・充実させるとともに、大学や地域の医療機関等と連携・役割分担し、医師と患者さんとのふれあいも大切にする施設になると聞いていると説明した。

これに関連して、特定の大学に偏らずに連携するなど、新しい発想の病院を作ってほしいとの意見があった。

- (7) 若い夫婦が子供連れで流入している地域でも、子ども会の参加率というのが非常に低く、子ども会の役員のなり手もないので、町内自治会でカバーしている。今後、生産年齢人口の減少に伴う税収入の減が予想される中、スマートシティ推進ビジョン策定の背景の中の前段に、人口減少、少子高齢化という部分があるが、具体策がないとの意見があった。

これに対し、中央区長から、千葉市全体のまちづくりに関しては、千葉市基本計画があり、そこで大きな柱を立て、3年間の千葉市実施計画により、具体的な施策を計画している。その中で、子育ての具体策を示していることを説明した。

関連して、スマートシティ推進課から、環境基本計画など各部門の計画がある中で、スマートシティ推進ビジョンは、それらを底支えするような分野の横断的な指針という位置付けで策定されていること。また、子ども会に関して役員の負担軽減のためにICTを活用するなど、テクノロジーの活用により、便利で豊かな暮らしを実現できるよう、行政だけでなく、地域の皆さんや事業者など、みんなで解決策を考え、快適なまちにしていけることが、スマートシティ推進ビジョンの基本的な考え方であることを説明した。

- (8) 高齢者が増えていく中、子供たちの数が追いついていかない。地域の力は、子供たちの数であり、町内自治会で、高齢者と子供たちをどうにか結びつけて、何か面白いことができないかをいつも考えている。これを応援してほしいとの意見があった。

これに対し、中央区長から、ご高齢の方のフレール予防や生きがい対策だとか、子育てについて、共働きのお母さん、お父さんが多くて、子供たちの預け先がないとか、居場所がないことへの課題を解決するため何が必要か、対応をしている町内自治会やNPOに、中央区の地域活性化支援事業で補助

金を出すなど、小さいところから色々考えながら進めていること。千葉市は、子育てしやすいということを前面に打ち出し、なるべく多くの方に住んでいただこうと取り組んでいることを説明した。

また、スマートシティ推進課から、近々、半導体の事業者と包括連携協定を結ぶ予定があり、今後、地域のデジタル人材の育成に力を入れることから、地域の皆様のお困り事を受け付け、課題解決につながるテクノロジーを紹介する窓口のような役割を担う仕組みづくりを検討していることを説明した。

中央区長からもこの点の補足として、窓口として中央区役所地域づくり支援課地域担当職員に相談してほしいことを説明した。

2 埋蔵文化財調査センター

(1) 「郷」がいつの時代に決められたものか質問があり、埋蔵文化財調査センターより奈良時代との回答があった。

(2) 遺跡の話について、中央区のその頃の人口について質問があった。

埋蔵文化財調査センターからは、人口動態は不明だが、奈良時代として計算すれば、出せなくはないかもしれない。全国で 1000 万人には到底及ばないこと。人口は農業の発展に大きくかかわっていて、江戸時代後半が確か 3000 万人ぐらいであること。これらから推測できるかもしれないが、はっきり言えないという説明があった。

3 中央区地域づくり支援課

(1) 町内自治会の I C T 化のモデル的なプログラムはないのか質問があった。

これに対して、中央区地域づくり支援課長から町内自治会の I C T 化ということで、令和 5 年度から、市民自治推進課が何地区か選び、実証実験をしていること。令和 6 年度も引き続きモデル地区として実証実験をして、それが成功すれば横展開したいことを説明した。

また、スマートシティ推進課の説明のように、I C T 化に取り組んでいる町内自治会とか、その他団体、高齢者団体なども令和 6 年度も実証実験のような形で取り組むのであれば、市からも支援したいということを説明した。

これに対し、市の方針と町内自治会が全く繋がらず、独自で動いても後で困るので、どうしたら良いかなど教えてほしいとの意見があった。

(2) 会長歴 10 年で、27 町内自治会が所属する地区連協の会長より、町内自治会の会員はどんどん減っているが、マンションは増加している中、マンションが会員加入の点で難しい点があるとの意見があった。建設時に管理組合やデベロッパーに相談しているが、挫折の連続であり、メリットがないっていつ言われるか不安であること。マンションの掲示板で使える A 4、1 枚のダイジェスト版の広報物を、興味を持ってもらえるような項目だけにして工夫していること。I C T で、市の関係情報、町内自治会活動や行事、避難訓練などの情報が、町内自治会を通じて、取得できることを市からもっと P R してほしいという提案があった。

これに対し、中央区地域づくり支援課長から次のような説明をした。マンションが、なかなか町内自治会に参加してくれないことを多くの町内自治会関係者から聞いていること。各町内自治会会長さんなどの営業活動によりなんとか加入促進をしていただいている点に感謝していること。加入促進には、町内自治会で何をやっているのかを示す必要があること。例えば、町内自治会が、防犯街灯やゴミステーションの管理などを行っていることをイラスト入りで、分かり易く説明した啓発ポスターなどを作成していること。これを区連協役員に確認しながら、4月にはお示しできるようにしたいことを説明した。

デジタル情報という点では、例えば、LINEのプッシュ型の通知の機能、そこにその地域の情報をどこまで入れられるのか、これから検討していかなければいけないという認識を持っていることも説明した。

- (3) 町内掲示板をどうするのか。汚くて、更新するのか、やめるのか。はっきりしてほしいとの意見があった。

この点に、地域づくり支援課長から、現状、撤廃するとかという考えはなく、壊れてしまったら中央区地域づくり支援課で、順番待ちになるが、修理していること。今後、伝達手段の効果について、課題として検討していくことを説明した。

中央区長

限られた時間ですが様々な貴重なご意見をいただくことができたことに感謝します。本当にありがとうございました。